

令和5年度 札幌医科大学医学部同窓会 総会を顧みて

札幌医科大学医学部 免疫・リウマチ内科学 高橋裕樹（札幌医大32期）

令和5年度の札幌医科大学医学部同窓会は新型コロナウイルス感染症流行前の2019年以来、4年ぶりに対面形式で、令和5年7月8日（土）に札幌プリンスホテル国際館パミールで開催されました。今回の幹事期は41期と51期でしたので、総合司会は41期で、同窓会幹事でもある杉村政樹先生（札幌医科大学医療人育成センター教育開発研究部門教授）が務められました。本会のメインイベントの1つである学術講演会ですが、第51期からは国立がん研究センター中央病院頭頸部・食道内科の本間義崇先生、第41期からは本学保健医療学部看護学科看護学第三講座教授の丹野雅也先生が登壇されました。本間先生のお兄さんは私と同じ本学旧第一内科同門であり、北見で訪問診療含め地域医療に邁進していることは良く知っていましたが、こんなに優秀な弟さんがいることは存じ上げませんでした。「人と人の縁が紡いでくれたキャリアパス」と題して、学生時代のクラブ活動（ラグビー部）から始まって、現在の臨床・研究活動に至るまでを最新の研究結果とともにご講演頂き、特に若い世代の先生たちには是非聴いて欲しい内容でした。丹野雅也先生は現在も兼務されている循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座のスタッフの重鎮として皆さん、よくご存じのことと思いますが、本年度から現職に就任され、診療を継続しながら、保健医療学部の学生への教育に取り組まれています。「心不全パンデミックに立ち向かう～心不全診療の現在・過去・未来～」として、心不全診療の最前線まで、先生のお仕事を含めてご解説頂きました。こちらは特に私を始め旧時代に教育を受けた内科医には眼から鱗の講演で大変勉強になりました。また、社会福祉貢献賞には胆振地区、特に室蘭・登別地域での診療に20年以上に渡り従事し、またストーマ医療や災害医療にも尽力されている佐々木賢一先生（市立室蘭病院副院長）に授与されました。その後の総会ではこの4年間に逝去された同門会員のお名前が奉読され、ご冥福を祈り全員で黙祷を捧げました。西里卓次会長のご挨拶に続き、令和4年度の事業報告、会計・監査報告、令和5年度の事業計画・予算案を含む事案が報告されました。懇親会は感染対策として、従来の立食ではなく着席での会食となりましたが、参加者全員が時間を惜しんで久しぶりの懇親会を楽しんでいました。2019年以來の対面での同窓会でしたが、参加者は80名に及び、盛会裡に終わりました。

（文責：高橋 裕樹）